

写真提供：長崎県・県央地域広域市町村圏組合消防本部

防火防災教育ビデオ・DVD

火災から高齢者を守る 検証 長崎・グループホーム火災

監修

東京大学 名誉教授
工学博士 菅原進一



企画意図

平成18年1月、長崎県のグループホームで入居者7名が亡くなるという痛ましい火災が発生しました。このようなグループホームなどの高齢者福祉施設は、今、全国で急速に増加しています。長崎の大惨事をキッカケに高齢者福祉施設の防火管理のあり方が見直され始めています。

そこで、この作品では長崎・グループホーム火災で被害が拡大した原因を徹底検証します。そして様々な高齢者福祉施設で行われている防火対策を具体的にに取り上げ、防火管理のあり方を考えます。スプリンクラー設備についても、実験映像などを使い、詳しく説明します。高齢者福祉施設の関係者に火災の恐さ、防火対策の大切さを再確認してもらい、長崎・グループホーム火災のような悲劇を、二度と繰り返さないようにという目的で制作したものです。



■グループホームでの防災対策

「グループホーム」とは、認知症の高齢者や障害者が家庭的な雰囲気の中で、スタッフと共に生活するという介護施設。ここ5年で施設数は10倍に急増。現在、全国の施設数は約8000に上る。

今、このような介護施設の防火対策の強化が、盛んに叫ばれ始めている。その大きなキッカケとなったのは、長崎のグループホームで起こった悲惨な火災だ。

平成18年1月8日午前2時頃、長崎県大村市にある認知症高齢者グループホーム「やすらぎの里 さくら館」で火災が発生。火は瞬間に建物を飲み込み、お年寄り9名のうち、7名が亡くなる大惨事となった。

この痛ましい火災はなぜ、どのようにして起きたのか……詳しく検証していく。

初期消火は行われたのか？早期通報は？

火災現場では「フラッシュオーバー」も三度ほど起きたという。その「フラッシュオーバー」とは？

高齢者施設の火災は、過去にも起きている。昭和62年東京都東村山市の特別養護老人ホーム「松寿園」で起こった火災。寝たきりのお年寄りを含む17人もの死者を出した、この火災をキッカケに、どのように防火管理が強化されてきたかについてもふれていく。

■注目される住宅用スプリンクラー

グループホームなどの高齢者福祉施設では耐火構造や防火カーテン、自動火災報知設備など、様々な防火対策がなされている。

その中でも大きな役割を担うのがスプリンクラー設備である。しかし従来のスプリンクラーは地下に水槽と、そこから水を汲み上げるポンプなど仕組みが大がかりで設置に莫大な費用がかかるため、グループホームなど小規模施設には負担が大きい。

そこで注目されているのが住宅用スプリンクラーである。このタイプのもは専用水槽が不要で、水道から直接水を引くため工事費用も少なくすむ。

ここでは実験映像などを交えて住宅用スプリンクラーの効果を捉えていく。

■早期発見・初期消火・早期通報・早期避難。

グループホームで――

設置されている自動火災報知器、夜勤職員による見回り、消防署員による消火訓練の様子など、様々な取り組みを捉えて防火管理のあり方を見ていこう。

長崎では「さくら館」の火災後、グループホームに、ボタンを押すと自動的に消防署に連絡が入り、逆探知で位置を確認できる通報設備システムを導入した。この装置を使いこなし早期通報が出来るよう、訓練も定期的に行っている。

又、別のホームでは、消防署を交えての大規模な消防訓練を年二回、ホーム内の避難訓練を毎月行い、避難誘導の迅速化を図っている。

防火管理者のいる高齢者施設での取り組みも紹介していく。

■地域との連携の重要性

更に重要となるのが地域との連携。イザというとき地域の人たちの協力が得られるよう、スタッフとお年寄りが積極的に近くの商店へ出かけ、コミュニケーションを図る事も行われている。

こうした取り組みが、万一の時、近所の人々が駆け付けてくれて、高齢者を避難させる強い力となってくれるのだ。

●監修 東京大学 名誉教授
工学博士 菅原進一

●スタッフ 制作統括
プロデューサー……高木裕己
脚本・監督……川崎けい子
撮影……高橋哲也・津崎健太郎
演出補……阿部伸太郎
選曲……徳永由起子
ナレーター……大野ちか
イラスト……正者章子

●撮影協力 長崎県・県央地域広域市町村圏組合消防本部/
社会福祉法人恵光会グループホーム慈恵荘/
グループホームあんのん/医療法人社団慈泉会/
うなね杏霞苑/グループホームほっとステーション鐵庵/
総務省消防庁消防大学校消防研究センター/
千住スプリンクラー株式会社

●制作著作 株式会社ニチボウ/株式会社映学社

●お問い合わせ、お買い上げは……



EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-2池与ビル3F
TEL:03-3359-9729(代表) FAX:03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>